

各教科等の授業時数（小学校）

学校教育法施行規則別表第 1（第 24 条の 2 関係）

区分	各教科の授業時数									道徳の授業時数	特別活動の授業時数	総合的な学習の時間の授業時数	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育				
第 1 学年	272	-	114	-	102	68	68	-	90	34	34	-	782
第 2 学年	280	-	155	-	105	70	70	-	90	35	35	-	840
第 3 学年	235	70	150	70	-	60	60	-	90	35	35	105	910
第 4 学年	235	85	150	90	-	60	60	-	90	35	35	105	945
第 5 学年	180	90	150	95	-	50	50	60	90	35	35	110	945
第 6 学年	175	100	150	95	-	50	50	55	90	35	35	110	945

備考

- この表の授業時数の 1 単位時間は、45 分とする。
- 特別活動の授業時数は、小学校学習指導要領で定める学級活動（学校給食に係るものを除く。）に充てるものとする。
- 第 24 条第 2 項の場合において、道徳のほかに宗教を加えるときは、宗教の授業時数をもつてこの表の道徳の授業時数の一部に代えることができる。（別表第 2 の場合においても同様とする。）

出所：文部科学省ホームページ、小学校学習指導要領

http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301b.htm

各教科等の授業時数（中学校）

学校教育法施行規則別表第2（第54条関係）

区分	必修教科の授業時数									道徳の授業時数	特別活動の授業時数	選択教科等に充てる授業時数	総合的な学習の時間の授業時数	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	140	105	105	105	45	45	90	70	105	35	35	0～30	70～100	980
第2学年	105	105	105	105	35	35	90	70	105	35	35	50～85	70～105	980
第3学年	105	85	105	80	35	35	90	35	105	35	35	105～165	70～130	980

備考

- この表の授業時数の1単位時間は、50分とする。
- 特別活動の授業時数は、中学校学習指導要領で定める学級活動（学校給食に係るものを除く。）に充てるものとする。
- 選択教科等に充てる授業時数は、選択教科の授業時数に充てるほか、特別活動の授業時数の増加に充てることができる。
- 選択教科の授業時数については、中学校学習指導要領で定めるところによる。

出所：文部科学省ホームページ、中学校学習指導要領

http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301c.htm

（高等学校）

総合的な学習の時間の授業時数については、卒業までに105～210単位時間を標準とし、各学校において、学校や生徒の実態に応じて、適切に配当するものとする。

出所：文部科学省ホームページ、高等学校学習指導要領

「第5款 各教科・科目、特別活動及び総合的な学習の時間の授業時数等」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/sonota/990301d/990301a.htm

資料 1 - 2

教育課程審議会まとめ

子どもたちに「生きる力」をはぐくんでいくためには、いうまでもなく、各教科、道徳、特別活動などのそれぞれの指導に当たって様々な工夫をこらした活動を展開したり、各教科等との連携を図った指導を行う等、様々な試みを進めることが重要であるが、「生きる力」が全人的な力であることを踏まえると、横断的・総合的な指導を一層推進しうるようなあらたな手だてを講じて、豊かな学習活動を展開していくことが極めて有効であると考えられる。

今日、国際理解教育、情報教育、環境教育、などを行う社会的要請が強まっているが、これらはいずれの教科等にもかかわる内容を持った教育であり、そうした観点からも、横断的・総合的な指導を推進していく必要性は高まっていると言える。

このため、上記の2つの視点から、各教科の教育内容を厳選することにより時間を生み出し、一定のまとまった時間（以下、「総合的な学習の時間」と称する）を設けて横断的・総合的な指導を行うことを提案したい。

出所：山根耕平『総合的学習の研究 その思想と展望』（ナカニシヤ出版、2001年）p17

資料 1 - 3 - 1

(2) 自己評価等（第2条）

小学校等は、その教育水準の向上を図り、当該小学校等の目的を実現するため、当該小学校等の教育活動その他の学校運営の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとしたこと（第1項）。

の点検及び評価を行うに当たっては、適切な項目を設定して行うものとしたこと（第2項）。

(3) 情報の積極的な提供（第3条）

小学校等は、当該小学校等の教育活動その他の学校運営の状況について、保護者等に対して積極的に情報を提供するものとしたこと。

出所：小学校設置基準及び中学校設置基準の制定等について(通知)

資料 2 - 2

宇都宮大学教育学部の学生へのアンケート集計結果…5名分(女3名、男2名)

Q 学部、またはあなたの学科において、「総合的な学習の時間」について学ぶような講義、または実習の授業などはあるか。

あるのであれば、それはどのように行われているか。(授業形式、履修学年、単位認定など)

- ・大学の講義では「総合演習」という講義を受けた。班ごとに、ある程度決められた課題があり、その中で自由に調べ、発表するというものだった。また、教育実習でも総合の授業を観察した。私の観察したクラスは、インターネットを使い、自分の興味のあることを調べ、ワードやエクセルでまとめるというものだった。(技術教育専攻3年・男)
- ・ビデオで、どこかの小学校で「総合的な学習の時間」を利用して、子どもたち一人一人が関心のあることをなんでも(自分の住む町のこととか、自分の好きな教科とか、なんでも)、自分で決めたテーマに沿って調べていくっていう、機会を設けているっていう内容があった。小学生が自主的に勉強するっていう形で、先生はあくまでサポートという感じで子どもを指導していた。(地域社会教育コース3年・女)
- ・教育実習で附属小に行ったおりに、「総合」の授業を参観することができる。(障害児教育専攻2年・女)
- ・後期、金曜2コマに「総合学習の指導」というのがあった。また、教育実習に行けば、総合の授業ができる。(障害児教育専攻3年・男)
- ・私の学部では「総合的な学習の時間」という授業があるが、そのほかの学部共通科目でも総合についてはやる。「教育課程及び方法」という授業では、様々な教育の実践例(ex. オープンスクール、教科の枠にとらわれない学習など)を、ビデオを見ながら学んでいく。その中のほとんどが総合学習についてふれている。(数学教育専攻4年・女)

Q その講義(または実習)を受けた感想を教えてください。(感じたこと、思ったことなど)

- ・総合演習では、「総合」の役割みたいなものは正直よく分からなかった。自分達が、生徒がやるように、調べ、発表しただけで、この科目で何を生徒に学ばせたいのかは、学ばなかった。教育実習では、調べる、まとめる、発表するという能力は身につけさせることができていると思うが、実践力が身についたかと言うと少し疑問があった。(技術教育専攻3年・男)
- ・子どもたちは結構大変そうだったけど、自分の興味あることを学習しているからみんなすごく楽しそうだし、その時間自体、充実感があって、いいなと思った。(地域社会教育コース3年・女)

- ・(研究授業で総合を行っての感想)進度が速い班は、何でもパッパッと自分たちで決めてどんどん進んでいくのだが、中には、教師の支援が必要なところ(支援をしても進まないところもあるが)もあって、その進度差の調節とかが大変だった。また、附属小はクラス解体なので、ほとんど知らない子どもが来て、どう支援していいのか困った。(障害児教育専攻3年・男)

Q あなたは「総合的な学習の時間」についてどのように考えていますか。(「総合的な学習の時間」というものについて感じていること、思っていることなど)

- ・この時間は、今までにない授業であることが大切だと思う。今の日本の子どもに欠けている、積極的な態度を養うことが目標ではないか、と私は思っている。しかし、実際の現場では、教師も何をすればいいのか迷っているのが現実だ。実習を観察してみても、やる気のある生徒とない生徒との差が大きかった。もっと、「総合」について教える側が研究し、明確な目標を持つことが必要ではないかと考える。(技術教育専攻3年・男)
- ・私が見たビデオの学校みたいに、子どもの自主性を十分に伸ばすような、普段の受身の教育とは明らかに違った形の学習を実現しているような、そういう時間にすることができたら、とても有意義なものだと思う。(地域社会教育コース3年・女)
- ・現在の指導体制では補えなくなってきている問題(児童・生徒の心理的变化)があり、学校でもそれを取り上げていくべきだと思う。「総合的な学習の時間」で、子どもたち自身にそれを分らせる必要もあるのではないかと思う。(障害児教育専攻2年・女)
- ・児童への実態把握と導入部分で、本当の目的を意識させて意欲を高めることができるかということと、机間支援(進度差等、子どもの実態に沿った支援をすることや、個だけを見ず全体も見ること)が重要であるということだった。総合の指導案はほとんど役に立たない。指導案通りに進まない。(障害児教育専攻3年・男)
- ・体験して学ぶというのが最近の教育のテーマだが、私は、先生が(総合学習だけでなく他教科においても)やる内容を決めてそれを体験させるのではなく、子どもたちが知りたい、考えたいと思っていること、疑問に思っていることを取り上げ、実践していく必要があると思う。興味のない内容を設定して体験させても、それは今までの押し付けの教育とさほどかわらないと思うからだ。子どもたちの内なる興味や学習意欲をうまく引き出すことで、広がりや深さをもった学習ができると思うのだ。また、各分野の専門的な知識をもった人を呼び(地域の人。例えば、農家の方や獣医さんなど)、お話を聞いたりと交流をすることで、地域の人々との関わりが増える。地域との連携が教育には必要なのではないかと思う。(数学教育専攻4年・女)

資料3 - 3 - 2

県立D高等学校生へのアンケート集計結果・・・38名分(女28名、男10名)

Q あなたがD高等学校総合学科へ進学を決めた理由を教えてください。

以下の選択肢から近いものを選んでください。(複数回答・・・4)

- | | |
|---------------------------|----|
| a 進学、就職に有利と考えたから。 | 5 |
| b 授業などカリキュラムに魅力を感じたから。 | 25 |
| c 自宅から近距離であるなど、通いやすかったから。 | 7 |
| d 当初志望していた高校に進学できなかったから。 | 2 |
| e なんとなく。 | 1 |
| f その他 | 2 |

f その他・・・自分の学力に合っていると思ったから。学力的に。

Q 総合学科で学んでいて良かった、と思う点がありますか。それはどのような点ですか。

- ・1年で「産業社会と人間」で、職業に対する知識をつけ、2年、3年で、自分のカリキュラムを作れるので、希望にあった大学や進路に進むことができるところ、さらに課題研究などの独特の教科があるところ。
- ・学習や興味の視野が広がり、自分が本当に好きなこと、やりたいことは何か、というのがわかったこと。
- 大学受験でAO入試を受けたが、そのとき、総合学科の特色を活かして自己アピールできたこと。
- ・他の学校にはない授業がとれる点。
- ・普通科では学べない教科が学べる点。
- ・文書処理など、パソコンを使った授業と普通科とそれほどかわらない授業を組み合わせることができる点。
- ・自分で科目を選択し、時間割を考えるなど、自主性が尊重されている。
- ・将来についてよく考えることができた。
- ・自分の進路にあった勉強ができるという点。進路に合った科目を選択できる点。
- ・進学に必要な教科だけを重点的にできる点。
- ・自分の興味・関心・進路に合わせて授業を選択できること。
- ・自分の興味・関心・進路にあったカリキュラムを選択でき、個性を伸ばすことができる点。
- ・自分の進路にあわせてカリキュラムが作成できた事により、好きな事がより深く学べた点。

- ・自分の特技を伸ばせる。
- ・英語を勉強するのに、複数の選択肢があるので、細かく勉強できる。
- ・興味のある科目(私の場合は外国語)を中心に科目選択できたので、かなり力がついた。進路や受験科目に合わせてカリキュラムを組めるので、受験にかなり有利になったこと。
- ・自分の学びたい事を詳しく学べる。自分の進路や夢に近づけた。
- ・児童福祉などの授業を選択できたことで、進路実現に向けてのカリキュラムが作成できたこと。
- ・将来に必要なと思う授業が選択でき、高校生のうちから基礎的な事が学べる点。
- ・保育の授業が学べたこと。将来、保育士になりたいので、入学する前から保育の授業を学びたいと思っていた。その授業を受けたことで、将来の夢に関心を持つことができた。
- ・様々な検定が受けようと思えば受けられる点。
- ・幅広い選択科目があること。
- ・みんな、進みたい先ややりたいことが違っていて、いろいろな考え方がある。それで刺激あえている点。
- ・特にはない。

Q 総合学科で学んでいて困った、まずかった、と思う点はありますか。それはどのような点ですか。

- ・1年時から「これだ!」という希望があるのならいいのですが、何も決まっていないと進路実現へのカリキュラム選択が難しい。途中で進路を変えた人などには不便。
- ・目標ややりたい方がない人は、大変だと思う。
- ・進路がはっきりと決まっていないと、科目選択で後悔する。
- ・受験科目に応じて授業を選択しなければいけないのに、受けたい大学がはっきりしていないから、困った。
- ・科目ミスをする、後で変更できないこと。
最初は自由に選択し、授業も普通科とは違って充実しているのかと思ったが、将来のことを見据えて、先生方が一方通行に選択の余地なしといった感じでカリキュラムを選んでしまうので、あまり普通科とかわらない。
- ・他の進路に変更したい(例えば私立大から国立大)ときに応用がきかないこと。
- ・一度授業をとってしまったら進路が変わってもかえられないから、必要なくても授業を受けることが時間の無駄だと思った。
- ・なんとなく選んだものが、自分とは関係のない進路の授業だった。
- ・全ての授業を自分の好きなようにとれないところ。
- ・カリキュラムを決めるのが早めな点。
- ・大学進学者が普通科よりも少ないので、勉強がおろそかになりやすい。

- ・ いざ、大学に進学しようと思ったとき、他の普通科の高校より、受験科目の勉強度が少ないなあ、と思った。
- ・ 専門的に学ぼうとしても、4年制大学に進学する場合、普通科と変わらない授業選択になってしまう点。
- ・ 興味ある授業ばかりを選択してしまい、かたよりがでてしまった点。
- ・ 普通科で学ぶはずの教科でも、自分の進路に関係なければ選択しないので、偏った時間割になってしまう点。
- ・ 移動教室が多いこと。
- ・ 自分が思っていた授業と違う点。
- ・ 感じたことはない。特になし。

Q あなたの将来の夢を教えてください。

- ・ 二輪車販売店の経営
- ・ 当たり前前を当たり前前にする自立した大人になりたい。
- ・ 教師、公務員、バリバリ働くこと
- ・ 警察官
- ・ スクールカウンセラー
- ・ 裁判官
- ・ 保育士
- ・ 観光業務
- ・ (管理) 栄養士
- ・ 幼稚園教諭
- ・ 幸せになること
- ・ 学芸員
- ・ 研究者
- ・ 子どもに関わる仕事
- ・ 病院、福祉施設などの心理関係職
- ・ 全日本公認のアスレティックトレーナー
- ・ 考え中
- ・ 通訳
- ・ 国際機関に就職し、戦争孤児難民救済の仕事をする。世界平和に貢献したいと思っている。
- ・ 小説家
- ・ 英語を活かした仕事
- ・ 図書館司書

- ・ 高校の事務員
- ・ 広告代理店でコピーライターとしてやっていきたい。
- ・ プロデューサー

あとがき

今回、卒論を書くにあたって論文・レポートの書き方という本を読み、初めて、論文やレポートというのがどのような形式をもって書くものであるか、きちんとした形で把握しました。当たり前の感想として、もっと早くに知っていればよかったなと感じました。

行政学の研究室に身を置いての、『教育』を取り上げた今回の卒論、正直テーマ選択を失敗したかなと感じました。単純な「総合的な学習の時間」に対する興味は当然のことながらこれだけにはとどまらず、次第に「教育とは!!!」となってきて正直ぐったりしてきたところがあったからです。が、教育について真剣に考える機会が、こうした形でもあったことは良かったかなと感じていますし、学校のシステムというのがまるで社会のシステムを反映していることから、教育を考えることの重要性を改めて認識しました。

振り返ってみて、インタビュー中心の私の調査方法においては、多くの方々の協力を得たことを実感しています。論文中では学校名を伏せているため、ここで直接お名前を申し上げることはできませんが、調査に協力してくださった先生方、児童生徒の皆さん、また、栃木県教育委員会の方々と栃木県総合教育センターの方々、サークルの友人たちには、心より感謝申し上げます。そして、教育がテーマの論文作成において多大なお力添えをいただきました教育学部の松本敏先生、最後になりましたが2年間大変お世話になりました指導教官の中村祐司先生に、心から感謝の意を表し、あとがきにかえたいと思います。

参考文献

梅原利夫、西本勝美 [編著] 『未来をひらく総合学習「総合的な学習の時間」へのもう一つのアプローチ』(ふきのとう書房、2000年)

苅谷剛彦 『教育改革の幻想』(筑摩書房、2002年)

永山彦三郎 『現場から見た教育改革』(筑摩書房、2002年)

野原明 『戦後教育五十年』(丸善ライブラリー、1995年)

茂木弘道 『ゆとり教育の落とし穴』(国民會館、2002年)

文部省 『高等学校学習指導要領解説 総則編』(東山書房、1999年)

山根耕平 『総合的な学習の研究 その思想と展望』(ナカニシヤ出版、2001年)

参考ホームページ

栃木県総合教育センターホームページ <http://www.edu-c.pref.tochigi.jp/index.htm>

文部科学省ホームページ <http://www.mext.go.jp/index.htm>